

まい 埋蔵文化財

No.13
千葉県八千代市
埋蔵文化財通信

2007.3.22

平成 18 年度 を 振 り 返 っ て

平成 18 年度もあとわずかととなり、今回は、この一年を振り返ってみたいと思います。

発掘調査

4 月には萱田町に所在する川崎山遺跡 (k 地点) の調査を行いました。弥生時代の竪穴住居跡 1 軒を発掘しました。

同時並行で、大和田新田芝山遺跡、上高野地区稻荷前遺跡の確認調査も行いました。

5 月の終わりから 6 月にかけて、新東原遺跡の調査を行いました。

6 月の後半から 7 月にかけては、川崎山遺跡 L 地点の確認調査を行いました。

8 月は、下高野新山遺跡の確認調査を行い、縄文時代中期阿玉台式期^{あたまたい}の竪穴状遺構 1 基を確認しました。この調査の結果を受け、8 月から 9 月にかけて、下高野新山遺跡の第 4 次本調査を行いました。

9 月から 10 月にかけては、大和田新田に所在するラサル山南遺跡 (b 地点) の確認本調査を行い、下高野新山遺跡と同じく、縄文時代中期の竪穴状遺構を調査しました。出土遺物としては、八千代市においては出土例の少ない、縄文時代早期^{ちがせんちん}の沈線文系土器(約 8,000 年前)が出土しました。

また、時期を同じくして、島田地区に所在する島田込^{しまどめ}ノ内遺跡^{うち}の確認調査を行い、弥生時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡 13 軒を確認しました。

12 月、佐山地区の道地遺跡 (c 地点、d 地点) の確認調査を行いました。c 地点に

おいては、弥生時代後期の竪穴住居跡 1 軒と、古墳時代前期の竪穴住居跡 1 軒を確認しました。

同じく 12 月、それらの調査と並行して、大和田新田のライノ作南遺跡の本調査を行い、縄文時代の土坑 6 基、古代～中世の溝 1 条を調査しました。

2 月からは、吉橋の急傾斜地で妙見前遺跡の第 2 次本調査が行われています。

3 月からは、川崎山遺跡 k 地点の確認調査を実施しています。

整理作業

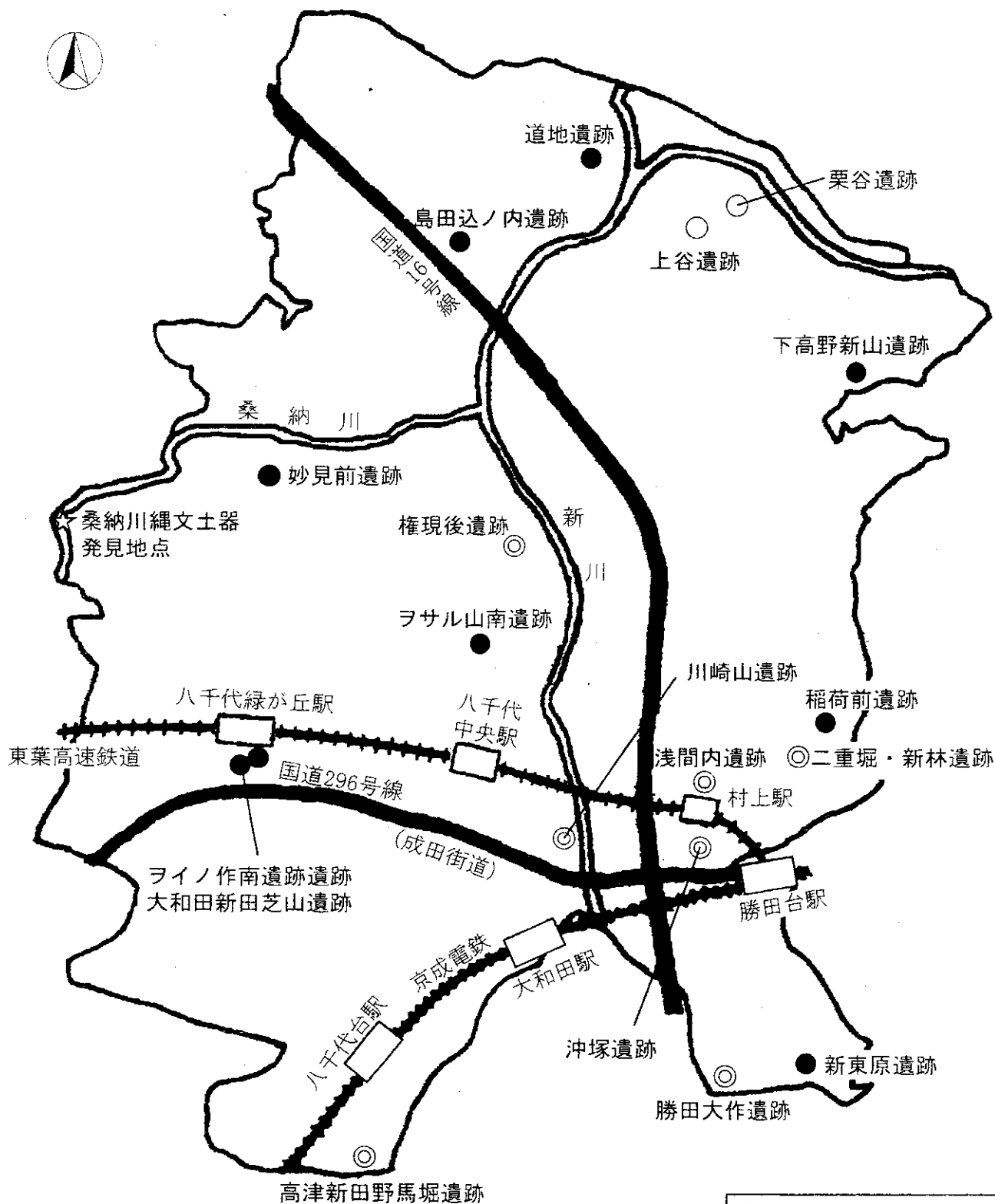
大きな事柄としては、昨年度からの継続事業である浅間内遺跡、沖塚遺跡その他の整理作業を行ったことでした。年度末には報告書を刊行する予定です。旧石器時代～中近世に至る複合遺跡であり、今後、注目されることでしょう。これらは、村上^{むらかみ}辺田前^{へたま}地区の区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査でした。

6 月から 9 月にかけて、4 月に調査した川崎山遺跡 (k 地点) の整理作業を行い、10 月に報告書を刊行しました。

10 月から、文化伝承館建設時に調査した権現後遺跡^{ごんげんごしろ}の整理を始めました。古墳時代の後期の竪穴住居跡 3 軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡 1 軒、近世の溝等があり、「吉祥」と書かれている墨書土器^{ぼくしよ}の出土が注目されます。ただいま、報告書を印刷中です。

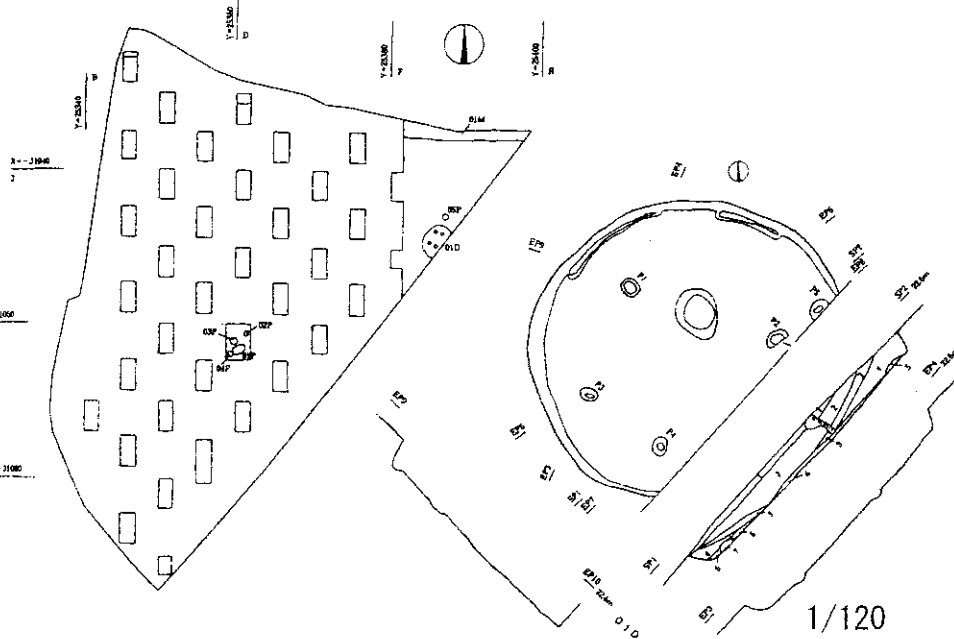
その他、勝田台の勝田大作遺跡、上高野

平成18年度に調査・整理した遺跡



※縮尺任意

- 今年度調査をした遺跡
- ◎ 今年度整理をした遺跡
- その他の遺跡

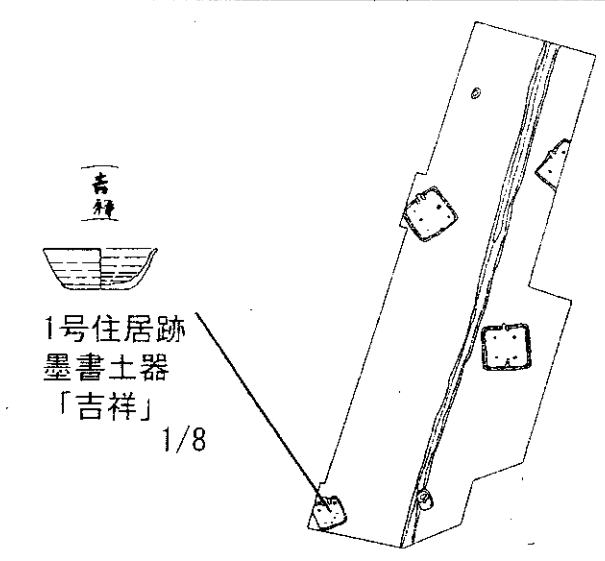


遺構配置 1/1,000 弥生時代の竪穴住居跡 (01D)



ヲサル山南遺跡出土沈線文系土器

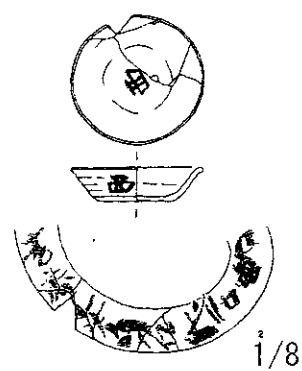
川崎山遺跡 (k地点)



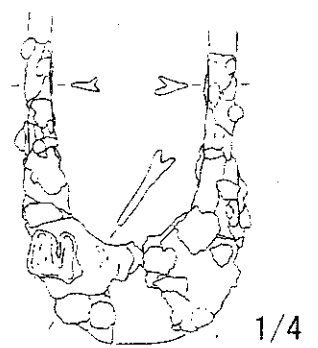
1号住居跡
墨書土器
「吉祥」
1/8

遺構配置 1/800

権現後遺跡

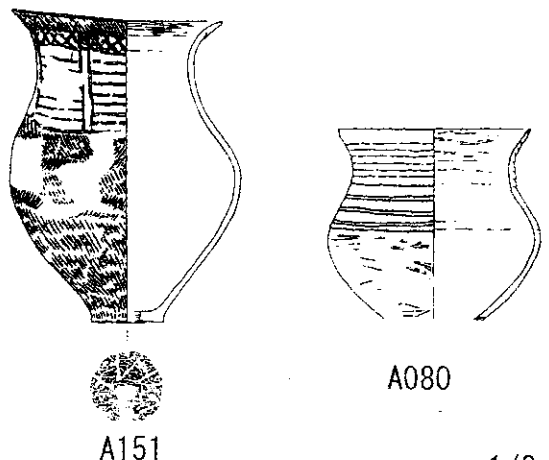


奈良・平安時代
墨書土器



奈良・平安時代
鉄製品 (鍬先)

上谷遺跡出土遺物

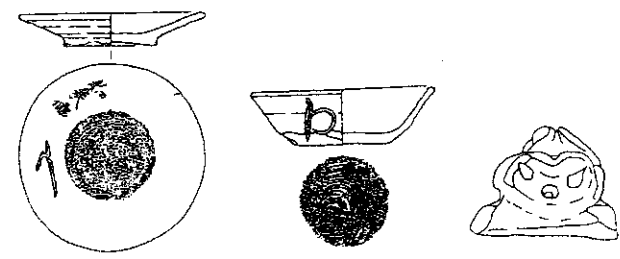


A151

A080

1/8

栗谷遺跡出土弥生土器



浅間内遺跡出土

1/6

の二重堀・新林遺跡の整理作業も実施しました。また、年度末には平成17年度に行った、確認調査等の報告書が平成18年度市内遺跡として刊行される予定です。さらに、来年度に向けて、八千代台南の高津新田野馬堀遺跡の整理の準備を開始しました。

普及啓発事業その他

まず取り上げなければならないのは、長らく休刊状態にあった「埋やちよ」が復活(!?)したことです。

また、普及啓発事業として、5月には、4月に行われた川崎山遺跡(k地点)の地元説明会を実施しました。

7月には、市民有志と一部研究者による、「印旛沼周辺における弥生土器シンポジウム」が勝田台文化センターで実施され、教育委員会としても後援しました。その中で話題に挙がった、八千代市栗谷遺跡出土の弥生土器の一部は、現在、教育委員会ロビーに展示してあります。是非ご覧ください。

11月には、「千葉県立房総のむら」の資料館で企画展「祈りの風景 病魔退散！」が開催され、八千代市からは、上谷遺跡出土の墨書土器10数点を貸し出し、展示されました。

年度後半には、川崎山、栗谷、上谷の各遺跡から出土した炭化材、鉄器の一部の保存処理を行いました。

その他、数年前に桑納川流域で縄文時代の後晩期の土器が大量に発見されていたの

ですが、そのことが端緒となり今年度に入り、(財)千葉県教育振興財団が桑納川の調査を行い、明治大学の杉原教授、阿部教授らによる学術調査が計画されるまでに至りました。

終わりに

以上、駆け足ではありますが、平成18年度を振り返ってみました。

今年度は、野外調査は比較的少なく、整理作業が幾分進んだかと思われま

す。相変わらず、開発に伴う緊急調査が多い現状に変わりはありませんが、来年度は、整理作業はもとより、普及啓発事業にも積極的に取り組んでいきたいと思

います。(宮澤)



上谷遺跡出土 イノシシ形土製品

今年はいのしし年 猪突猛進?で
頑張ります!!

埋(まい)やちよ No.13

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成19年3月20日

編集・発行 八千代市教育委員会

社会教育課 文化財保護班

八千代市大和田138-2

☎276-0045 ☎047(481)0304

—編集後記—

今回は、現在、八千代市文化伝承館が建っている、萱田の権現後遺跡の特集です。